

事務事業名	須屋市民センター維持管理事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連			
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課	
施策名	21	生涯学習の推進		所属係	生涯学習班	課長名	野本 立一	
基本事業名	80	生涯学習・スポーツ施設(環境)の整備		担当者名	合志 新一	電話番号 (内線)	096-242-1190 2421	
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 03	事業 公民館費	法令根拠		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 昭和49 年度 ~) (年度 ~ 年度)							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)		
(事業の内容) 須屋市民センターの維持管理事業 (業務の内容) 市民センター施設全般の消耗品の補給や各所の営繕を行い、市民の要望に応じた利用しやすい環境を整える。 (予算の内訳) 需用費(消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料						総投入量	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)	0
							人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間	
							人件費計 (B)	0
							トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

①(物件費)事務所内PHS電話子機設置、体育館内旧町章書き換え、グラウンド防球ネット改修、遊具(ブランコ)撤去、注意書き看板書き換え移設、2階湯沸室水道蛇口増設

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

- ①(物件費)掃除機(1台)購入
②(人件費)施設管理人3名への報酬

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市民(須屋市民センター利用者)

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

須屋市民センターの施設を快適に利用してもらう。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

活動する場がある

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人件費・物件費の事業費実績額	円
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 須屋コミュニティ人口	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 施設が快適になったと思う市民の数	人
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 学習・スポーツに親しむ施設が整っていると思う市民の割合	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円			1,896	1,800	1,800	1,800
	一般財源	千円	3,816	3,884	4,761	4,299	6,000	6,000
	事業費計 (A)	千円	3,816	3,884	6,657	6,099	7,800	7,800
	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4
	延べ業務時間	時間	150	150	150	150	150	150
	人件費計 (B)	千円	375	375	596	596	596	596
	トータルコスト(A)+(B)	千円	4,191	4,259	7,253	6,695	8,396	8,396
活動指標	円	3,966,000	4,034,000	6,895,000	6,337,000	6,238,000	6,238,000	6,238,000
対象指標	人	11,400	11,600	11,800	12,000	12,200	12,400	12,600
成果指標	人	未調査	未調査	未調査	3,000	3,200	3,300	3,400
上位成果指標	%	35,217	39,220	31,934	33,000	34,000	35,000	35,500

合志市

事務事業名	須屋市民センター維持管理事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	----------------	-----	----------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等					
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？					
昭和47年9月に須屋市民センター（旧須屋スポーツセンター）が開館し、旧西合志町の須屋地区における生涯学習施設の拠点となり、施設の維持管理が必要となった。					
② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
近年、施設の老朽化が甚だしく、平成13年度から施設建て替えの検討が開始された。行政、地域住民、学習講座の関係者が協議を重ね、平成15年度に現位置での建て替えが成った。 同施設が立地する須屋南部地区は、本市屈指の人口増加地域であり、隣接の市町村からも施設利用者が流入しており、利用団体間の調整や、利用マナーの悪化等が年々顕在化しているため、施設は新しくなったが、利用者のニーズに追いついていない面もある。					
③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
施設周辺はほとんど住宅街であるため、近隣住民から施設利用者のマナー違反への苦情が絶えない。また、利用者のマナー等が悪化し施設の破損が絶えず、修繕の要望が数多く寄せられている。					

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 多額の費用を投じて建設された施設は、供用を続ける限り維持管理費用を要する。地域住民の生涯学習の拠点として存続させるのであれば、必要最小限の維持管理は必要であり、行政の責任で行わなければならない。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 施設の維持管理や改修は、施設利用者の利便向上を目指すものであるため、対象意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を向上させる余地はあるか？ 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ この施設は3年前に建て替えを行っており、地域住民の意見を十分反映した施設となっている。施設はおおむね快適であり、他の市町村からの利用の制限を検討しなくてはならないほど施設利用者数は多くなっている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 施設の維持管理を怠ると、多数の利用者に不快感を与え、施設の安全性が損なわれ、市民に危険な施設を提供し続けることになる。市民の安全確保のためにも事業の遅滞は許されない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒【理由】⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 単体で建設された施設であるため、類似施設は他にもあるが、施設経年も異なるため、連携や共同の事業実行は困難である。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 物件費の内訳は、各公共料金や修繕費であり、利用者の協力により市民みんなで儉約に努めており、必要最小限の計上のみである。これ以上の削減は難しいと思われる。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 正職員の関与を最小限に抑えるため、現場管理員を配置している。この現場管理員も他施設に比べ報酬額は低いため、削減も難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 施設利用の市民には、受益者負担の原則に従い、施設の維持管理の一端を担っていただくため、施設利用料及び冷暖房使用料の負担をいただいております。利用者による適正な施設の維持管理に貢献しています。よって公平公正であると考えます。

合志市

事務事業名	須屋市民センター維持管理事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	----------------	-----	----------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

須屋市民センターは、地域のコミュニティ施設として本市生涯学習の振興に大いに寄与している。
ただ、利用者のすそ野が広がるにつれ、不心得な施設利用も増えている。
施設の有効利用のため維持管理に努めていきたい。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	×
	低下		×	×

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項